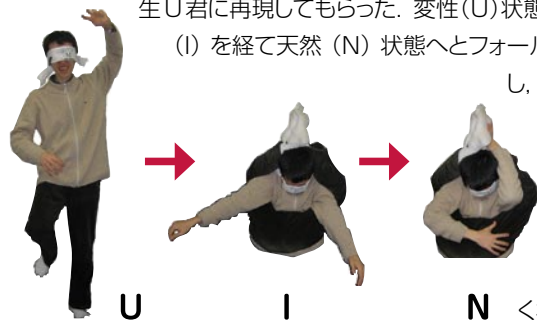


## 「リアル」蛋白質社会 その1：人間フォールディング

「タンパク質の社会」は、細胞内を人間の「社会」に見立てた表現である。じゃあ、その逆はどうだ、ということで、タンパク質社会をリアルに表現してみることにした。名付けて、シリーズ「リアル蛋白質社会」。第一弾は、本領域の基盤とも言えるタンパク質フォールディングである。

その昔のTiBSに「フォールディングする人」の漫画があり、ヴォートの生化学の教科書にも載っているのをご存じであろうか (*Trends Biochem. Sci.*, 1, 50, 1976)。これをラボの院生U君に再現してもらった。変性(U)状態から中間(I)を経て天然(N)状態へとフォールディング



U

I

N

し、「I」状態が「N」状態に近いねえ、ということもよくわかる…。

と、書いてきたが、実はこの「芸」はU君がラボの飲み会などで自発的に行っていたものであり、それに発想を得て使わせてもらったのが順番であり、決して強制したり、シャペロンとしてフォールディングをガイドしたわけではない(実際、U君はTiBSの漫画は知らなかったそうです)。折り紙も得意なU君は、事も無げに「だれでも練習すればできますよ」と言うが、並みの男性ならなかなかそうもいきまい。かようにフォールディングというのは難しいものなのか、ということがよくわかる写真となった。ただ、「N」状態がエネルギー的に一番「不安定」で今にも変性状態に戻りそうに見えるのはご愛敬である。

ニュースレターは息抜きのページも重要である(少なくともぼくは)。ということで、第一弾は思い切り気合いを入れつつ、脱力感にあふれるものになった。「その1」となっているが最初で最後かもしれない…。何かいいネタをおもちの方は編集部にどうぞ。

(田口 英樹)

